

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.34</b>		-		<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	-	-		<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	<b>3.0</b>	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35	-	-		<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	<b>3.0</b>	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	<b>3.0</b>	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	<b>3.0</b>	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.1</b>	0.25	-	-		<b>3.1</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 方位別開口				-	-	<b>3.0</b>	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	<b>3.0</b>	-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	<b>3.0</b>	-		
3.3 照度		工場内は500lx以上、事務室は750lx以上とする		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.4</b>	0.25	-	-		<b>4.4</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		使用材料はすべて規制対象外(JIS・JASのF☆☆☆☆)とする		5.0	1.00	<b>3.0</b>	-		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		5.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.2</b>	0.40	-	-		<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.3</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 リフレッシュスペース		延床面積3508㎡×1%=35㎡<休憩室95㎡		4.0	0.33	-	-		
3 内装計画		3階食育スペースは木質系の温かみのある雰囲気とする		4.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		調理場内壁・天井は汚れを拭き取りやすい化粧ケイカル板を採用		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		床下配管ピットはメンテナンス性を考慮して地中梁下を潜り抜けることができるつくりとした		4.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.3</b>	0.30	-	-		<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増(用途係数1.25)の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	ダクト等を考慮し階高にゆとりをとった	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	鉄骨ラーメン構造とし壁に耐震要素がないつくりとした	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
1階厨房床積載荷重は3700N/m <sup>2</sup>							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	床下配管ピットはメンテナンス性を考慮して地中梁下を潜り抜けることができるつくりとした	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.36</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域に開かれたつくり	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.64	<b>5.0</b>	0.20	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI <sub>m</sub> =0.79	<b>3.1</b>	0.50	-	<b>3.1</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>3.0</b>	1.00	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.4</b>	0.20	-	<b>3.4</b>
1.1 節水			調理員使用器具は自動水栓とした	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.1</b>	0.60	-	<b>3.1</b>
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			再生加熱アスファルト混合物、外構舗装(基層)	3.0	0.22	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			躯体と仕上げが容易に分別可能。	4.0	0.22	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物(参考値)に対して85%以下	<b>3.5</b>	0.33	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>2.6</b>	0.33	-	<b>2.6</b>
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>3.7</b>	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内でトラックの転回・待機スペースを確保、従業員用に駐輪場を用意	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	厨芥脱水機によりごみの減容化を図る	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.2</b>	0.33	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				<b>3.0</b>	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				<b>3.0</b>	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				<b>4.4</b>	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋内照明は目的に応じた適切な照度レベル設定としている。広告物照明はなし。	5.0	0.70	-	-	

	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-
--	---	------------------------	-----	------	---	---